

いちき串木野市学校施設長寿命化計画

(概要版)



令和4年2月

いちき串木野市

目 次

序章. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	
(1) 背景と目的	1
(2) 計画の位置づけ	1
(3) 計画期間	2
(4) 計画における対象施設	2
第 1 章. 学校施設の目指すべき姿	
(1) 学校施設の今日的な課題	3
(2) 学校施設のあり方	3
第 2 章. 学校施設の実態	
(1) 公共施設の運営状況・活用状況の把握	4
(2) 学校施設の老朽化状況	6
第 3 章. 学校施設整備の基本方針	
(1) 学校施設の規模・配置計画等の方針	8
(2) 改修等の基本的な方針	8
第 4 章. 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準	
(1) 改修等の整備水準	10
(2) 維持管理の項目・手法等	10
第 5 章. 長寿命化の実施計画	
(1) 施設評価及び優先順位	11
(2) ライフサイクルコストの算定	12
(3) 事業計画策定	12
第 6 章. 長寿命化計画の継続的な運営方針	
(1) 情報基盤の整備と活用	13
(2) 推進体制等の整備	13
(3) フォローアップ	13

序章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

(1) 背景と目的

本市の学校施設は、昭和 30 年半ばから平成 10 年半ばまで、約 40 年間にかけて整備が行われており、築 30 年以上を経過する建物棟数が全体の 8 割半ばを占めている状態です。

その中で、校舎、屋内運動場等の主要建物の合計 74 棟のうち、旧耐震基準である昭和 56 年(1981)以前に建設されたものが 44 棟あり、200 m²を超える建物の耐震診断を行い、診断結果に基づいた耐震補強工事等を実施して耐震補強が実施されています。

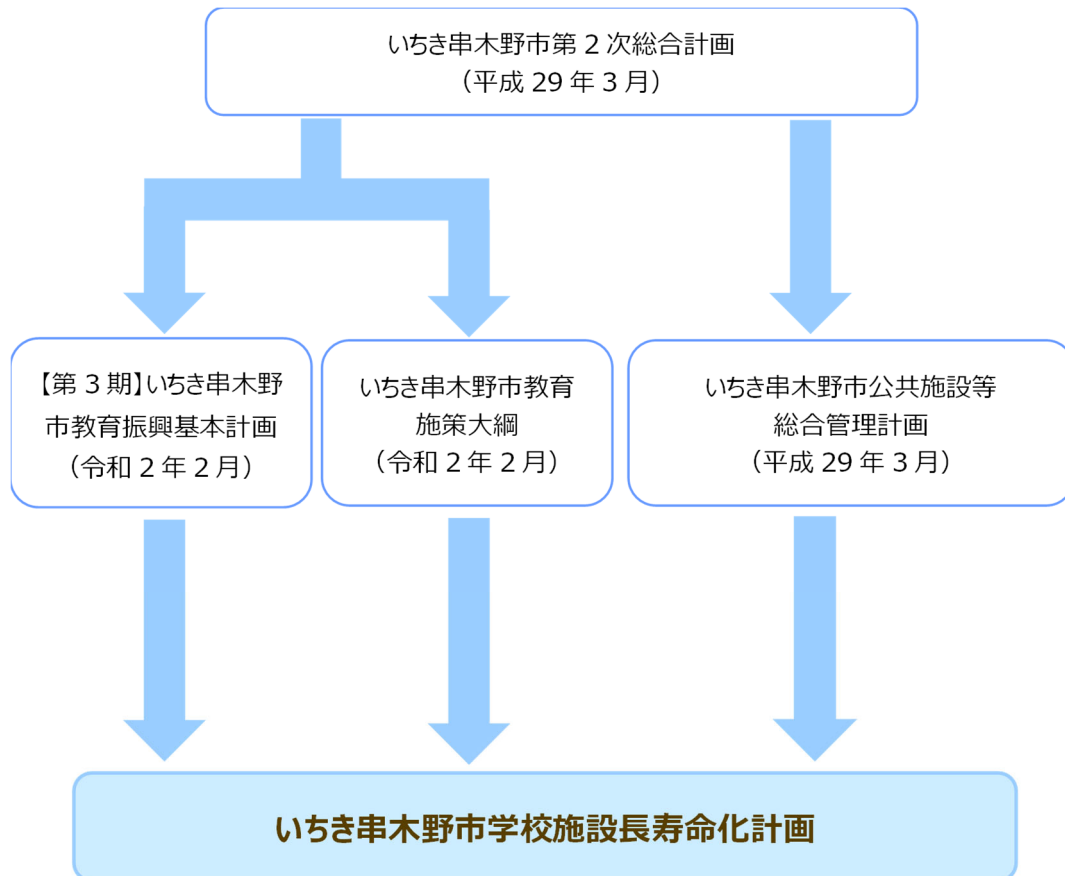
しかし、耐震補強を行った建物を含め、建築から長い年数が経過した建物や設備の老朽化により、今後、建替え又は大規模改修に多額の費用が必要になると考えられます。

しかしながら、厳しい財政状況の中、学校施設の整備を集中的に行うことは困難であり、財政運営に大きな影響を与えることから、計画的な施設整備を行う必要があります。

学校施設長寿命化計画(以下「本計画」という)は、以下の背景を踏まえ、中長期的な視点から学校施設として求められる機能や役割等を考慮しながら長寿命化改修、建替等の方向性や優先順位等を設定し、施設整備に要するライフサイクルコストの縮減、財政負担の平準化、児童生徒の安全性の確保や適正な教育環境の充実を図ることを目的として、策定するものです。

(2) 計画の位置づけ

本計画の上位・関連計画を踏まえ、それらの内容との整合を図りながら、多様な機能や役割を充足しつつ、施設整備を計画的に行い、長寿命化を図ることを目的として策定します。



(3) 計画期間

本計画の計画期間は、「いちき串木野市公共施設等総合管理計画」で設定されている 10 年間と同じく、今後 10 年間の事業計画を策定するものとします。

ただし、法改正等の社会的要求水準の変化を受けて、状況が変化する場合があるため、中間の 5 年を目処に計画の見直しを行います。

(4) 計画における対象施設

本計画における対象施設は、下表に示す小学校 8 校、中学校 5 校、幼稚園 1 園とします。

表:対象施設一覧

区分	施設名	所在地	延床面積 (㎡)	対象建物※
小学校	くしきの 串木野小学校	いちき串木野市日出町536番地	7,630	12
	てるしま 照島小学校	いちき串木野市照島5453番地3	4,480	5
	はしま 羽島小学校	いちき串木野市羽島5359番地	3,241	4
	あさひ 旭小学校	いちき串木野市金山14067番地	1,534	7
	せいふく 生福小学校	いちき串木野市生福8605番地	2,116	4
	あらかわ 荒川小学校	いちき串木野市荒川2347番地1	1,402	5
	いちき 市来小学校	いちき串木野市大里3731番地	4,323	5
	かわかみ 川上小学校	いちき串木野市川上1200番地	1,929	3
中学校	くしきの 串木野中学校	いちき串木野市日出町700番地	9,672	7
	くしきのにし 串木野西中学校	いちき串木野市平江20226番地1	4,835	4
	はしま 羽島中学校	いちき串木野市羽島5355番地	2,804	4
	せいかん 生冠中学校	いちき串木野市生福8551番地	2,185	3
	いちき 市来中学校	いちき串木野市大里3764番地	4,648	10
幼稚園	いちき 市来幼稚園	いちき串木野市大里3731番地	746	1

資料:令和3年度 いちき串木野市公立学校施設台帳
※延床面積 200 ㎡超え(主施設は 200 ㎡以下でも対象)

第1章 学校施設の目指すべき姿

(1) 学校施設の今日的な課題

■ 安全・快適な学校施設的环境向上

本市の学校施設の耐震化は完了していますが、建築年度が古く老朽化した校舎等が残されています。建物の改修を計画的に進め、児童・生徒が安全かつ快適に学ぶことができる教育環境の充実を図ることが必要です。

■ 児童・生徒の減少に伴う適正な学校の再編

本市の児童・生徒数は、人口減少化・少子化の進行等により年々減少することが予測されます。そのため、少子化に対応した活力ある学校づくりの方策を継続的に検討・実施していくことが求められており、児童・生徒にとって望ましい学校規模について、保護者や地域と一体となって検討していくことが必要です。

■ 社会の変化に対応した教育機器・教材の拡充

情報化社会に対応したデジタル教材の活用や情報教育を推進するためのICT環境の充実、社会状況の変化や多様な学習活動に対応した教材の整備等を計画的に行い、児童・生徒の学習能力の向上のための教育環境の充実を図っていくことが必要です。

■ 生活空間としての施設の充実

学校施設は、教育の場であるのみならず、生活の場として、交流の場の確保等多様な空間を整備することが必要です。さらに、バリアフリー化や防犯対策、エアコン設備やトイレの設備等衛生的な環境整備を図る必要があります。

■ 地域コミュニティ施設としての活用

小中学校は、学校と地域との連携による多様な交流の場として活用されています。また、災害時等の避難場所にも指定されています。このように、地域コミュニティ施設としての多様な機能に対応できる施設や設備の整備が必要です。

(2) 学校施設のあり方

本計画の方針を定めるにあたり、次のような環境や空間等が整備された学校施設を目指します。

■安全性 ■快適性 ■学習活動への適応性 ■環境への適応性 ■地域の拠点化

第2章 学校施設の実態

(1) 公共施設の運営状況・活用状況の把握

■ 公共施設全体の保有状況

本市の公共施設は全体で201施設、延床面積179,297㎡となっています。そのうち、学校教育系施設の延床面積は57,543㎡となり、全体の約3割を占めています。

■ 学校施設の保有状況

学校施設の築年別整備状況を見ると、築50年以上が1.4万㎡(27%)、築40年から築49年までが1.4万㎡(27%)、築30年から築39年までが0.9万㎡(17%)となっており、築30年以上を合わせると62棟(84%)、延床面積3.7万㎡(71%)となっています。

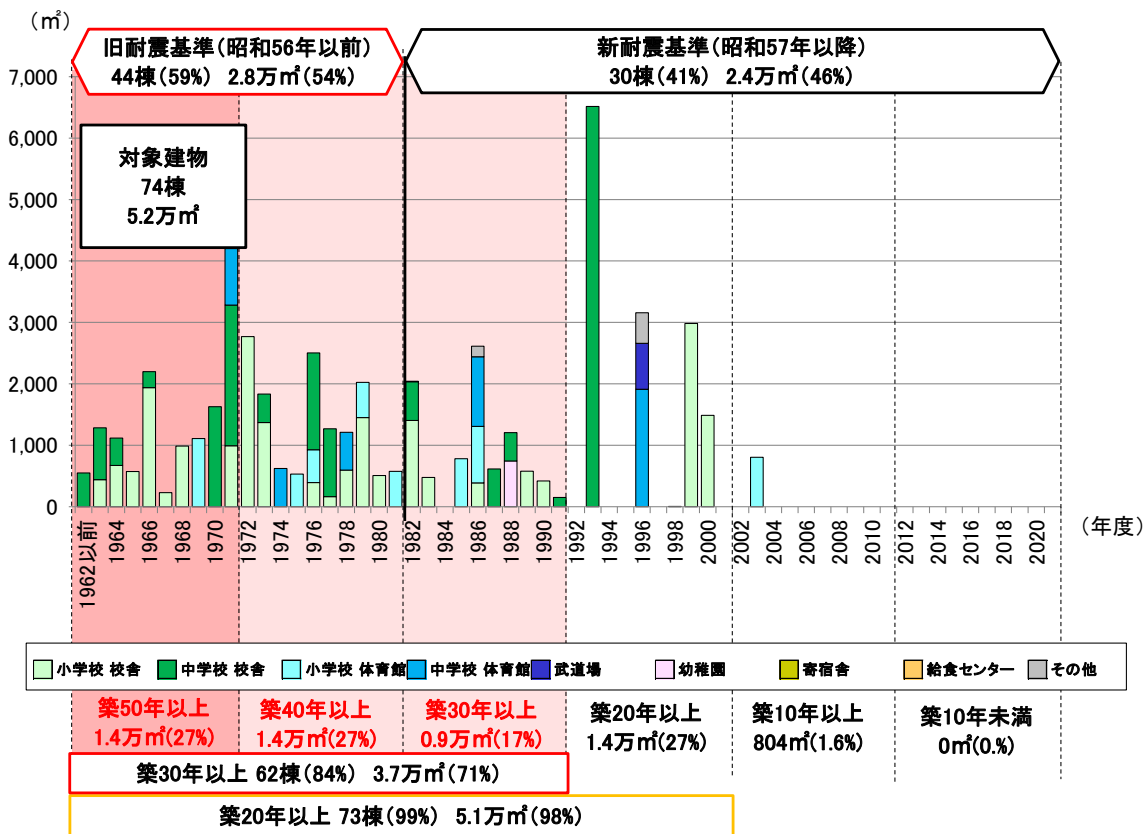


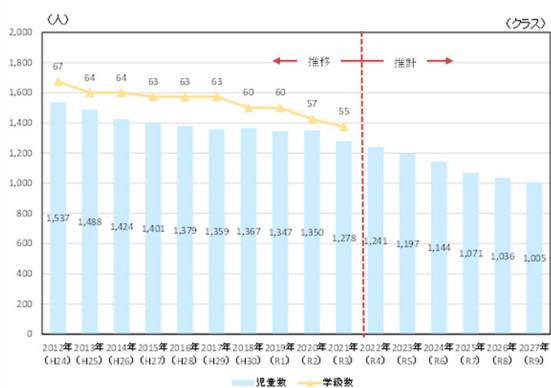
図: 学校施設の築年別建物状況

※ 作図のプログラムにより、面積は万㎡、比率が整数になっています。

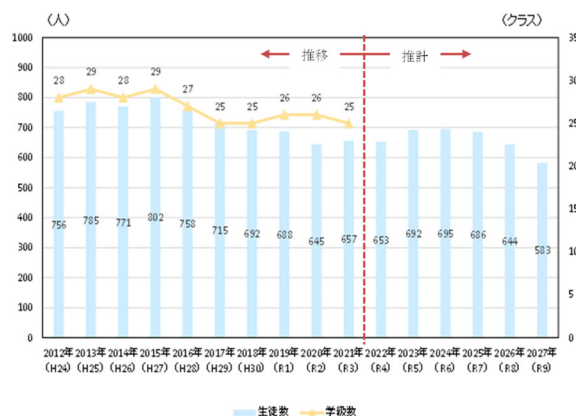
■ 児童・生徒数及び学級数の変化

➤ 児童・生徒数及び学級数の推移、推計

- ・児童・生徒数及び学級数の推移について、小学校の児童数・学級数はともに減少傾向となっています。同じく中学校も、生徒数・学級数ともに減少傾向にあります。さらに幼稚園も、園児数・クラス数ともに減少傾向にあると言えます。
- ・児童・生徒数の推計については、小学校の児童数は減少傾向に、中学校の生徒数は一時的に増加し、その後、減少すると予測されています。



図：児童数の推計



図：生徒数の推計

■ 学校の維持管理コスト

- ・維持管理コスト(施設設備費、その他施設整備費、維持修繕費、光熱水費、委託費)の平成28年度から令和2年度までの5年間の全体の年平均は、小学校で69,863千円、中学校で54,550千円、幼稚園で2,891千円となっています。

■ 学校施設の実態を踏まえた課題

➤ 厳しい財政状況を勘案した学校施設等の長期保全への取り組み

- ・将来的な人口減少に伴い、地方税の減少や扶助費の増加を踏まえると、財政状況がますます厳しくなっていくことが予想されます。このため、学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、長期的な予算配分を確立していくことが必要です。

➤ 学校施設等の維持・改修等総合的な対応

- ・施設の改修にあたっては、建築時の状態に戻すのではなく、その機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる必要があります。その際には、安全・安心な施設環境の確保、教育環境の質的向上、地域コミュニティの拠点形成を目指して再生を行うことが重要です。

➤ 小中学校の規模・配置の適正化の検討

- ・児童・生徒数が減少し、国が定める適正規模の学校は本市では串木野小学校のみで、その他は過少規模校と小規模校となっています。このため、将来を見据えた小中学校の規模や配置の適正化が課題となっていますが、その検討にあたっては児童・生徒にとって望ましい教育環境はどうあるべきかという観点に立ち、保護者や地域住民等の理解や協力を得ながら進めていくことが必要です。

(2) 学校施設の老朽化状況

■ 学校施設の老朽化状況の把握

施設の健全度・劣化状況を把握し評価するために、学校施設台帳、耐震診断結果を踏まえ、さらに目視による現地調査を行いました。現地の目視評価を踏まえた劣化状況による建物の健全度について、評価結果を以下に示します。

表：劣化状況

建物基本情報				劣化状況評価					
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
1	1063	串木野小学校	管理棟1F	-	B	B	A	A	82
2	1063	串木野小学校	管理棟1F	-	A	A	A	A	100
3	1063	串木野小学校	管理棟2F	A	A	A	A	A	100
4	1063	串木野小学校	階段室	A	C	A	A	-	80
5	1063	串木野小学校	教室棟	C	C	C	C	D	36
6	1063	串木野小学校	教室棟	C	C	C	C	D	36
7	1063	串木野小学校	教室棟	C	C	C	C	D	36
8	1063	串木野小学校	教室棟	C	C	C	C	D	36
9	1063	串木野小学校	屋内運動場	A	A	A	A	A	100
10	1063	串木野小学校	教室棟	B	B	B	B	B	75
11	1063	串木野小学校	教室棟	B	C	B	B	B	65
12	1063	串木野小学校	教室棟	B	B	B	B	B	75
13	1064	照島小学校	教室棟	A	B	A	A	A	93
14	1064	照島小学校	教室棟	A	B	A	A	A	93
15	1064	照島小学校	管理棟	C	D	C	C	D	28
16	1064	照島小学校	管理棟	C	D	C	C	D	28
17	1064	照島小学校	屋内運動場	B	C	B	B	B	65
18	1065	羽島小学校	管理教室棟	C	D	B	B	B	53
19	1065	羽島小学校	教室棟	C	C	C	C	D	36
20	1065	羽島小学校	教室棟	C	C	C	C	D	36
21	1065	羽島小学校	屋内運動場	D	D	B	B	B	51
22	1066	旭小学校	管理棟	B	B	C	C	D	49
23	1066	旭小学校	図書室	B	B	B	B	B	75
24	1066	旭小学校	教室棟	C	C	C	C	D	36
25	1066	旭小学校	音楽室	C	A	C	C	D	54
26	1066	旭小学校	給食室	A	A	B	B	-	86
27	1066	旭小学校	給食室	A	B	B	B	-	77
28	1066	旭小学校	屋内運動場	C	B	A	A	A	88
29	1067	生福小学校	管理・特別教室棟	C	B	B	B	B	72
30	1067	生福小学校	教室棟	D	B	A	A	A	85
31	1067	生福小学校	教室棟	A	B	A	A	A	93
32	1067	生福小学校	屋内運動場	D	C	C	C	D	34
33	1068	荒川小学校	音楽室	C	C	C	C	D	36
34	1068	荒川小学校	多目的教室	D	C	C	C	D	34
35	1068	荒川小学校	給食室	C	C	B	B	B	62
36	1068	荒川小学校	屋内運動場	B	B	C	A	A	68
37	1068	荒川小学校	普通教室	D	B	B	B	B	70
38	1253	市来小学校	特別教室棟	B	C	C	C	D	39
39	1253	市来小学校	屋内運動場	B	B	A	A	A	91
40	1253	市来小学校	教室棟	B	C	B	A	A	71
41	1253	市来小学校	教室棟	B	B	A	A	A	91
42	1253	市来小学校	特別教室棟	B	C	B	B	B	65
43	1254	川上小学校	屋内運動場	B	C	B	A	A	71
44	1254	川上小学校	教室棟	A	B	A	A	A	93
45	1254	川上小学校	家庭科室	B	B	B	B	B	75
46	4032	串木野中学校	校舎	D	B	B	B	B	70
47	4032	串木野中学校	校舎	B	B	B	B	B	75
48	4032	串木野中学校	校舎	B	B	B	B	B	75
49	4032	串木野中学校	屋内運動場	B	C	B	B	B	65
50	4032	串木野中学校	屋体クラブハウス	C	B	B	B	B	72
51	4032	串木野中学校	柔剣道場	-	C	B	B	B	64
52	4032	串木野中学校	部室	-	A	B	B	B	83
53	4033	串木野西中学校	管理教室棟	A	A	A	A	A	100
54	4033	串木野西中学校	教室棟	A	A	A	A	A	100
55	4033	串木野西中学校	特別教室棟	C	D	C	C	D	28
56	4033	串木野西中学校	屋内運動場	D	D	D	A	A	33
57	4034	羽島中学校	管理教室棟	B	B	A	A	A	91
58	4034	羽島中学校	印刷室	A	A	B	B	B	84
59	4034	羽島中学校	特別教室棟	A	B	B	B	B	77
60	4034	羽島中学校	屋内運動場	D	D	C	C	D	25
61	4035	生冠中学校	特別教室棟	B	B	B	B	B	75
62	4035	生冠中学校	管理教室棟	D	D	C	C	D	25
63	4035	生冠中学校	屋内運動場	A	B	A	A	A	93
64	4127	市来中学校	音楽室	A	B	A	A	A	93
65	4127	市来中学校	多目的室	A	B	A	A	A	93
66	4127	市来中学校	普通教室	A	C	A	A	A	83
67	4127	市来中学校	多目的室	A	B	A	A	A	93
68	4127	市来中学校	特別教室棟	C	B	C	C	D	46
69	4127	市来中学校	特別教室棟	C	C	C	C	D	36
70	4127	市来中学校	管理棟	C	B	B	B	B	72
71	4127	市来中学校	屋内運動場	B	C	B	B	B	65
72	4127	市来中学校	WC	B	B	B	B	B	75
73	4127	市来中学校	パソコン室	C	B	B	B	B	72
74	7004	市来幼稚園	園舎	A	C	B	B	B	67

 : 築50年以上
 : 築30年以上
A : 概ね良好
B : 部分的に劣化
C : 広範囲に劣化
D : 早急に対応する必要がある

■ 学校施設の老朽化所見

➤ 小学校 校舎

- ・築 40 年を経過した建物の老朽化が見られますが、大規模改造等の実施によって健全度の高い建物も多数あります。
- ・築 40 年未満の建物は、部分的な劣化は見られますが、広範囲の劣化はあまり見られません。
- ・機械設備を建築時から一度も更新していない建物が多数あります。

➤ 中学校 校舎

- ・築 40 年を経過した建物の老朽化が見られますが、大規模改造等の実施によって健全度の高い建物も多数あります。
- ・築 30 年未満の建物は、部分的な劣化は見られますが、広範囲の劣化はあまり見られません。
- ・機械設備を建築時から一度も更新していない建物があります。

➤ 小学校 体育館

- ・体育館は地域の避難所としての機能があり、旧耐震基準の建物は全て耐震補強を行っています(生福小学校は令和4年度に避難所として再指定)。市来小学校以外の体育館が建築後 30 年を経過しており、屋根・屋上、外壁ともに徐々に劣化が進行しています。
- ・羽島小学校体育館の屋根・外壁及び生福小学校体育館の屋根及び機械設備は特に劣化が進んでおり、早急に対応する必要があります。

➤ 中学校 体育館

- ・羽島中学校以外の体育館は地域の避難所としての機能があり、旧耐震基準の建物は全て耐震補強を行っています。
- ・築 40 年未満の建物は、部分的な劣化は見られますが、広範囲の劣化はあまり見られません。
- ・串木野西中学校体育館の屋根・外壁・内部、羽島中学校体育館の屋根・外壁及び機械設備は特に劣化が進んでおり、早急に対応する必要があります。

➤ 武道場

- ・柔剣道場(串木野中学校)は平成 8 年度に建築された建物で、広範囲の劣化が徐々に進んでいます。

➤ 幼稚園

- ・市来幼稚園は築 33 年を経過しており、外壁の老朽化が進行しています。

➤ 小学校 その他(給食室)

- ・給食室 2 棟(旭小学校)は、経年による部分的な劣化は見られますが、比較的良好な状態です。

➤ 中学校 その他(屋体クラブハウス、部室)

- ・屋体クラブハウス(串木野中学校)は、築 25 年の建物で、屋根に部分的な劣化が見られますが、それ以外は比較的良好な状態です。
- ・部室(串木野中学校)は築 25 年の建物で、比較的良好な状態が保たれています。

第3章 学校施設整備の基本方針

(1) 学校施設の規模・配置計画等の方針

■適正配置の方策

本市の学校施設は、小学校 8 校のうち過小規模校 4 校、小規模校 3 校、適正規模校 1 校と分類されます。中学校 5 校は全て小規模校と分類され、適正規模校はありません。

今後児童数・生徒数ともに減少していくと予測されています。このため本市においては、学校規模の適正化の検討が課題となります。

■配置計画の展望

本市の学校は、旧串木野市内に小学校 6 校、中学校 4 校があり、旧市来町内に小学校 2 校、中学校 1 校及び幼稚園 1 園が配置されています。

学校規模については、現状で小学校 4 校が過少規模校であり、小学校 3 校と全ての中学校 5 校が小規模校となっています。また、人口構成をみても、少子高齢化の進行は避けられず、より一層学校の小規模化が進むことが予測されます。

市では、教育計画の上位に位置する「【第3期】いちき串木野市教育振興基本計画」や「いちき串木野市教育施策大綱」において、幼・小・中・高の連携による学校教育の充実を図るため、小中一貫教育についての学校づくりを推進する考えを持っています。

これらのことから、今後は慎重に再編等の検討を進めていく必要があります。

(2) 改修等の基本的な方針

■長寿命化の方針

本市の学校施設等を整備していくにあたり、建物の老朽化に伴う維持管理コストが課題となります。本計画を策定するには、財政面を考慮した上での中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減、予算の平準化を実現するための対策が重要になっています。それには、建物を将来にわたって長く使い続けるために耐用年数を延ばすことを目的とした長寿命化改修があります。

■予防保全の方針

施設をできる限り長く使用するため、適切な維持管理を行っていくことが重要です。

「予防保全」は損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕等を実施することで機能・性能の保持・回復を図り、これにより突発的な事故が減少し、多額の費用の発生を抑えることができます。また、計画的な修繕を行うことで、施設に不具合が生じる前にメンテナンスを施し、従来の「事後保全」での整備と比較して施設を長く使用することができます。

■目標使用年数の設定

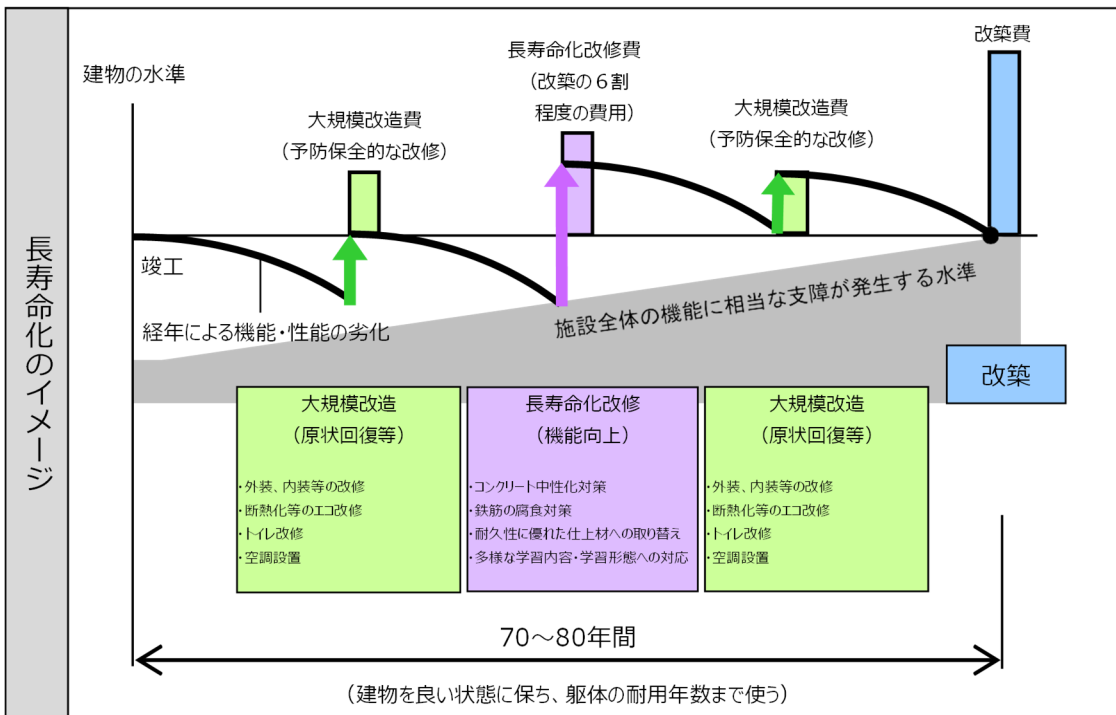
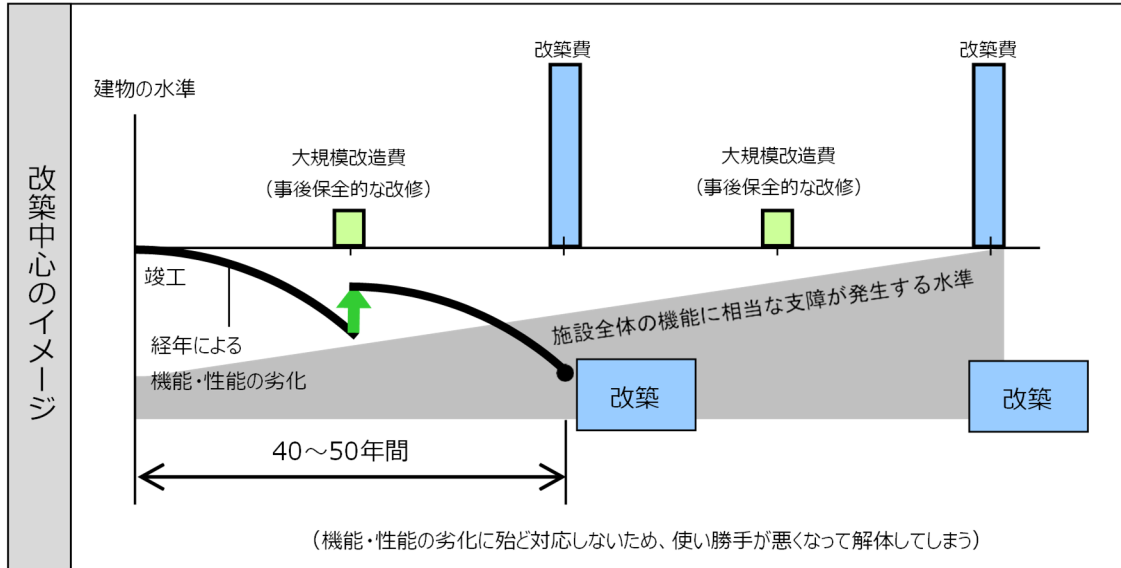
社団法人日本建築学会の「建築物の耐久計画に関する考え方」では、建築物全体の望ましい目標使用年数として、鉄筋コンクリート造の学校の場合、普通品質で 50～80 年、高品質では 80～100 年とされています。

本市の既存施設は普通品質であることから、学校施設等の目標使用年数を、適切な時期に長寿命化を実施することで最大値の **80 年** に設定します。なお、各施設の建築時期は、財政負担の関係上、学校施設全体の事業量について平準化を図る必要があるため、目標使用年数 **80 年** から若干前後させる設定も必要となる場合があります。

■改修周期の設定

学校施設等整備の方針を、改築が中心の整備から長寿命化を図る方向へと転換し、あらかじめ設定した目標使用年数まで使用することを目標に、適切な時期に改修を行います。

今までの改築中心では、劣化や破損等の大規模な不具合が生じた際の改修(事後保全的な改修)を行い目標とする使用年数で改築します。一方、長寿命化では、築 20 年経過後に原状回復のための改修(予防保全的な改修)を行い、目標使用年数の中間期(概ね 40 年後)に長寿命化改修を実施し、その後改築までの期間に再度原状回復のための改修を行うこととなります。



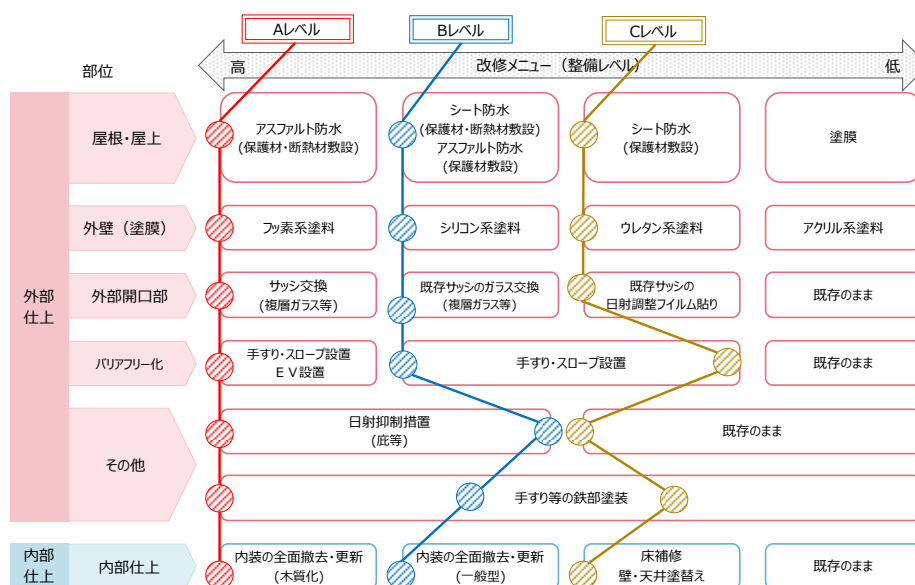
図：改築中心から長寿命化への転換イメージ

資料：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書(平成 29 年 3 月 文部科学省)

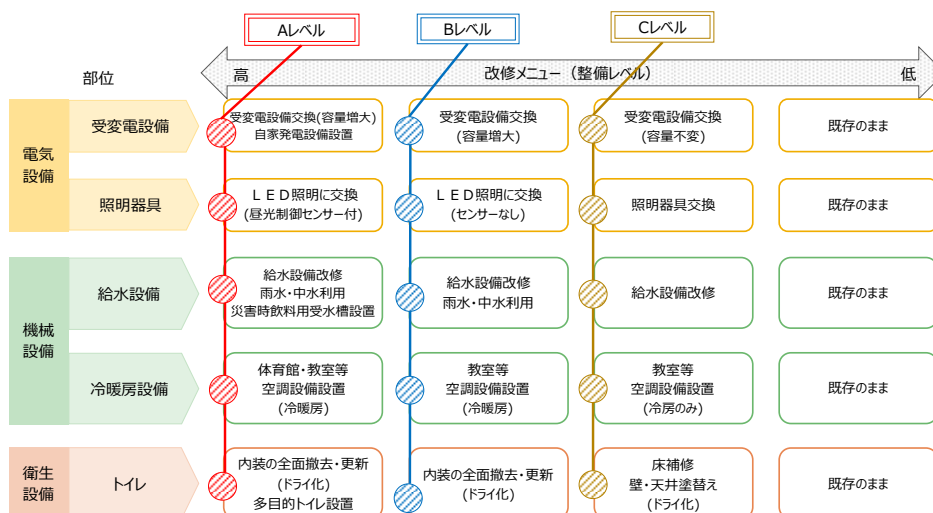
第4章 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準

(1) 改修等の整備水準

整備水準において、Aレベルは省エネ型で整備水準が最も高く、Cレベルは従来の整備水準にほぼ相当します。このため、基本的な整備水準のBレベルに設定しますが、建物の劣化状況や改修内容等により整備水準を柔軟に変更します。



図：校舎・体育館等の整備水準



図：主要な設備の整備水準

(2) 維持管理の項目・手法等

■ 維持管理の項目

維持管理のための点検は、「日常的な維持管理のための点検」「定期的な維持管理のための点検」「臨時的な維持管理のための点検」があります。

第5章 長寿命化の実施計画

(1) 施設評価及び優先順位

■ 施設評価

劣化状況評価の健全度で、劣化等が進み、優先的に長寿命化等の対策を講じることが望ましい健全度 40 点以下の建物 18 棟について、健全度が低い方から並べると次のようになっています。

表：健全度 40 点以下の建物

順位	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積 (㎡)	築年数	健全度 (点)
1	羽島中学校	屋内運動場	018	RC	1	614	43	25
	生冠中学校	管理教室棟	004	RC	2	1,105	44	25
3	照島小学校	管理棟	002	RC	2	1,451	42	28
	照島小学校	管理棟	002-1	RC	2	507	41	28
	串木野西中学校	特別教室棟	002	RC	2	821	50	28
6	串木野西中学校	屋内運動場	003	RC	1	919	50	33
7	生福小学校	屋内運動場	008	RC	1	576	40	34
	荒川小学校	多目的教室	003-1	RC	1	311	57	34
9	串木野小学校	教室棟	011-1	RC	2	440	58	36
	串木野小学校	教室棟	011-2	RC	2	360	57	36
	串木野小学校	教室棟	011-3	RC	2	281	56	36
	串木野小学校	教室棟	011-4	RC	2	292	56	36
	羽島小学校	教室棟	003-1	RC	2	832	55	36
	羽島小学校	教室棟	003-2	RC	2	230	54	36
	旭小学校	教室棟	003	W	1	427	49	36
	荒川小学校	音楽室	001	W	1	164	44	36
18	市来中学校	特別教室棟	016	RC	2	464	48	36
	市来小学校	特別教室棟	002	S	1	300	53	39

■ 改修等の優先順位

経過年数が健全度に影響することから、改修等を行う建物は、現段階で健全度の低い建物かつ建築年の古い建物から順次行うことを基本とします。これら、健全度 40 点以下の建物を優先して整備を推進します。

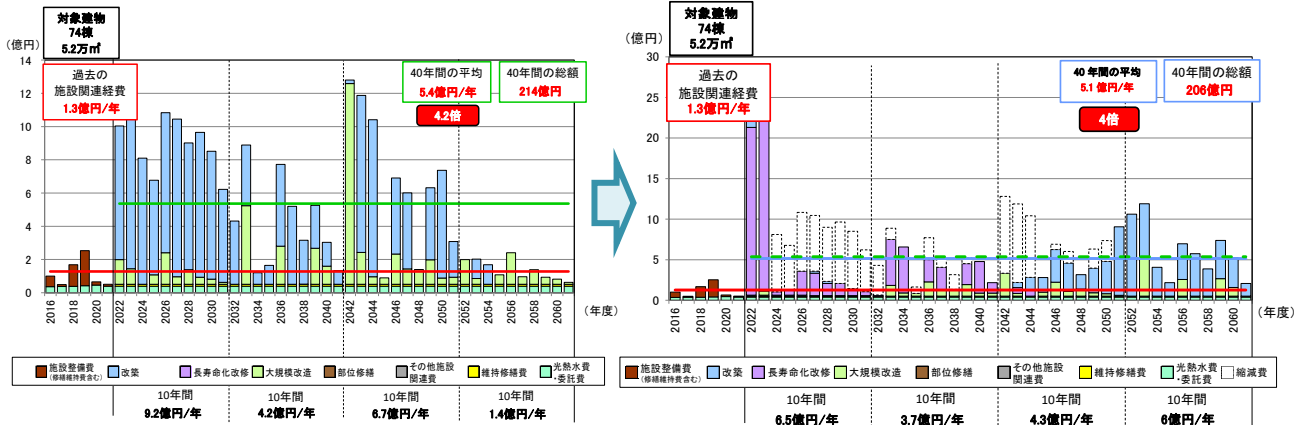
また、健全度が 41 点を超える建物については、今後の市の方針や他の整備状況及び劣化状況調査結果を見据えながら整備を実施します。

健全度が低い建物では、劣化状況調査で老朽化が進行していたり、設備等は建築後に一度も更新されていないため D 評価となっています。これらに対しては緊急性を要する建物として扱うため、5 年以内を目標に部位修繕を計画します。

(2) ライフサイクルコストの算定

ライフサイクルコストの算出は、長寿命化改修を実施せず建築後 50 年で改築する場合と、長寿命化改修を実施し建築後 70 年で改築する場合のそれぞれについて、当初の建築時点から次回の改築までに要するコストについて比較・検討しています。

- 予防保全型(長寿命化型)で維持・更新を行った場合は、事後保全型(従来型)よりも 40 年間の累計で、8 億円(年間 0.3 億円)の費用を削減することができます。



図：今後の維持・更新コスト(従来型)

図：今後の維持・更新コスト(長寿命化型)

(3) 事業計画策定

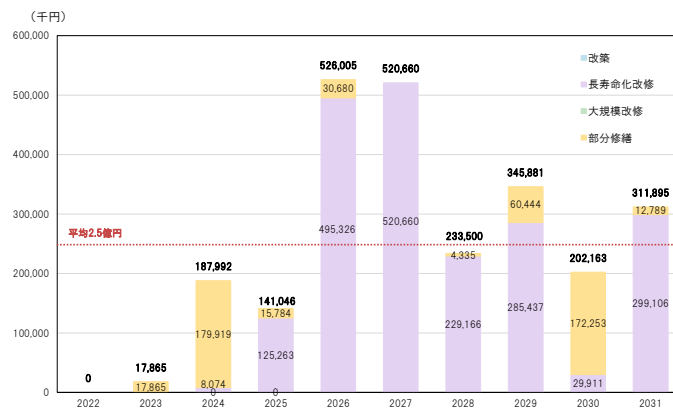
■ 今後 10 年間の事業計画

本計画では、上記で行った今後の維持・更新コスト比較の結果、長寿命化を施し延命措置を行うことを計画の基本とします。

ただし、長寿命化型での工事を実際に行うと、建築後 40 年以上経過した建物が全て長寿命化の工事となり、今後 10 年間で 65 億円(年当りの平均は 6.5 億円)が必要となります。これは市の財政状況や工事の管理体制を考えると、難しい課題となります。

そのため、市の整備計画の方針や方向性を踏まえ、なるべく事業費の平準化を図ったうえで、学校施設等ごとに順次整備を行っていきます。

その結果、10 年間の整備に係る事業費は 25 億円(年当たりの平均は 2.5 億円)となります。ただし、今後の学校計画の方針や市の財政方針及び施策等に変化が生じた場合には、事業計画の見直しを行います。



図：今後 10 年間の事業計画

第6章 長寿命化計画の継続的な運営方針

(1) 情報基盤の整備と活用

■ 施設カルテ及び建物目視調査票の作成

本計画を策定するにあたって収集した学校施設等の基礎資料や、屋根・屋上、外壁、内部等の建物目視調査結果を、施設カルテとして作成しています。

■ データベース及び簡易マニュアルの作成

施設カルテの情報は、データベース化し、パソコン上で閲覧でき、情報の一元化、共有化、継続化を図れるようにし、職員の誰もが簡単に操作できる簡易マニュアルを作成します。

■ データベースの活用

管理データベースは、今後の維持管理の効率化や最適化を図るとともに、改築や改修計画等の基礎的なデータとして、長期にわたり活用していきます。

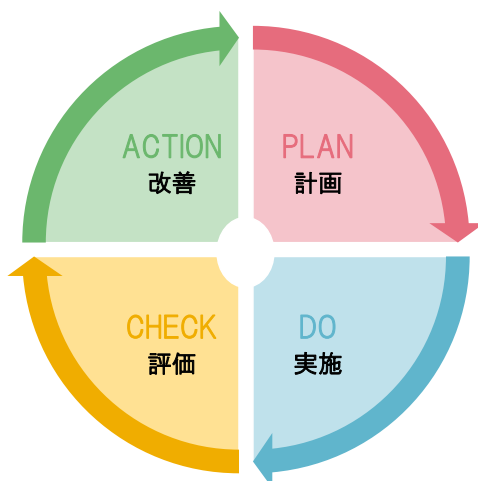
(2) 推進体制等の整備

本計画に基づいて、担当部署と各小中学校・幼稚園の関係者とが協力・連携を図りながら、必要な改修等を計画的・効率的・継続的に取り組んでいくことが必要です。さらに、他の公共施設の長寿命化計画との関係や財政状況、改修の検討に必要な技術的支援等、関係各課と協議・協力しながら推進するための体制を構築し、庁内横断的な取り組みを行っていきます。

(3) フォローアップ

効率的・効果的な施設整備を進めていくためには、常に施設の現状を把握し、問題点を検証・改善するとともに、計画の進捗状況や目標達成状況を正確に把握するという PDCA サイクルを確立し、的確にフォローアップをしていきます。

また、本計画は計画の進捗状況のフォローアップの結果や社会環境の変化等の状況を踏まえ、必要に応じ見直しを行うこととします。



図：PDCA サイクルイメージ